

# 巻頭言

## 「聞こえのハンドブック」

理事長 新谷 友良

5月の定期総会で承認された「聞こえに関する啓発ブックレット」刊行事業は、ブックレットの名前も「中途失聴・難聴者と家族のための聞こえのハンドブック」と決まり、12月中の完成を目指して編集作業の真最中です。医療関係者、大学の先生、補聴器販売店の方、当事者団体・支援団体で活動している方に執筆いただき、充実した啓発ブックレットを目指しています。

「聞こえのハンドブック」は、聴覚障害に対する、また中途失聴・難聴者に対する社会の理解を深めることに加えて、聞こえに困っている人自身が聞こえの仕組みと聞こえの障害を学ぶことを大きな目的としています。聞こえに困っている人が、聴覚障害について正しい理解を持つことは、自分の聞こえの状態を改善し、聞こえの障害を受け入れることの前提ですが、自分で勉強しようと思ってもなかなか適当な本がないことが、理事会や事業委員会で話題になっていました。それで、昨年このような本の作成が必要なことを東京共同募金会に説明しました。その結果、NHK共同募金の助成をいただくことが決まり、資金の目途もつきましたので、今年度協会事業として「聞こえのハンドブック」の作成がスタートしました。

刊行前に内容をあまり書くことは皆さんの興味を削ぐところがありますが、ハンドブックは聞こえの問題を、心の面、病気の面そして福祉の制度や情報保障など社会的な面から捉えています。必要なところ、興味深いところから個別に読んで、学習していただくこともできますが、できれば全体を読んでいただき、聞こえの問題の大きな姿をイメージしていただければと思っています。

完成しましたら、ハンドブックは地域の会や全国の協会に配布を予定しています。また、行政・医療機関・福祉施設などへの配布を予定しています。そして、協会としては来年3月の協会例会でハンドブックの合評会を開催して、読まれた方のご意見を伺うことを予定しています。このハンドブックを読んでいただいた一人ひとりの方が、聞こえの問題を自分の言葉で社会に向けて語りかけていただければ、このハンドブックの作成の大きな目的が達成されると考えています。